

スポーツの秋たけなわ。各種スポーツをテレビで見ていると、よく「流れ」という言葉を耳にします。「試合の流れが変わった」「まだどちらに流れが傾くかわかりません」などです。この「流れ」は、チーム状態の変化について使われると共に、個人においても存在します。

例えば、プロの世界においても、一流の選手ほど自分でよき「流れ」を作ることができ、二流で終わる選手はよい資質を持っていても、「流れ」を作る術を身に付けられません。したがって、年間を通して好成績を残せず、わずか数年でプロの世界から去らなければならぬといえます。

よき「流れ」を作るために一流選手が心がけることとして、毎日の準備を万全に行なうということが挙げられます。心を惑わせないように、いつも通りに同じ時刻に球場に入り、同じ準備体操をし、同じ練習をきつちりとこなしていきます。

行なうことの一つひとつは、誰もが出来る当たり前のことですが、この当たり前のことを毎日毎日淡々と、そして心を込めて繰り返すことができる選手であつてこそ、自分で今日一日のよい「流れ」を作ることが可能になります。一方で、二流で終わる選手は、この当たり前のことに毎日心を込めることができないのです。

企業経営も毎日が真剣勝負の連続です。しかも、今の日本を取り巻く経済の「流れ」は、逆流の「流れ」となっており、何もせず手を拱いていると負の方向に流される、そんな激流の中で舵取りをしているのが、現在の経営者と言えるでしょう。

経営者のA氏は、これまで調子の良い時



「誓い」の継続で 一日の流れをつくる

え・牧えみこ

は飛ぶ鳥を落とす程の力強さを発揮しますが、一度落ち込む時には数日にわたり調子が良くなり、併せて体調を崩すという波の大きなタイプでした。

ある日、A氏の信頼する先輩経営者から、波を失くすため、朝起きて一番に、今日一日の自分の心を決める「誓い」を立てることを教わりました。

「多くの皆様のお陰で今日も仕事ができますことを感謝致します。今日一日、どうかお客様に役立つ私でありますように」と、A氏は教えられるままに、自身で感謝と決意の含まれた「誓い」の文章を作成。毎朝一番に声に出して「誓い」を読むセレモニーを始めました。

しばらく経った頃、A氏は「誓い」を述べた後に心が落ち着いて来ること、やる気が高まってくることを感じるようになりました。そして、これまでのような大きな波は影を潜め、比較的良好「流れ」が毎日出来つつあるのも感じられるようになってきました。

「流れ」という存在は、他の何者でもなく自分の心が作るものです。悪く考えれば悪い結果となり、積極的な良いイメージが描ければ、よい結果が訪れます。

プロ選手が毎日同じトレーニングを淡々とかつ元気に行なうのも、朝一番に「誓い」を述べるのも、コントロールすることが難しい心を、活気ある行動と前向きな言葉によつて積極モードに切り替える意図があるのです。

よい「流れ」を作るためにも、人の役に立つ決意と感謝の思いを日々声に出すセレモニーを試みてはいかがでしょう。